

享保4年(1719)の家数・人口等: 家数78 人口511 (男231 女280) 本百姓66 水呑12
大工3 馬9疋

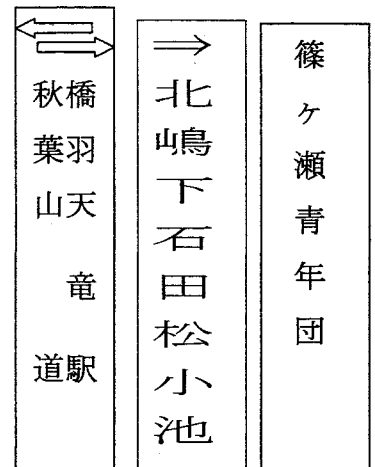


どこか 懐かしい街

I 榎田いの家並と 道標

大光電気株式会社のところの交差点を北に進むと、榎田いの家が並んでいる。懐かしい風情が漂う。そこの辻には小さな道標が、ひっそり立っている。見過ごすことがないように注意して歩きたい。明治31年、天竜川駅が開設され旅客が乗降できるようになった。天竜川駅方面を示す道標は、篠ヶ瀬町のほか北島町と天竜川町に残されている。

秋葉山道方面を示す道標は篠ヶ瀬町のほか北島町と安新町に残されている。篠ヶ瀬町の道標⇒北島町の道標⇒安新町の道標を辿って行くと秋葉山への道に出る。たいへん貴重な道標である。



見 逃 さ な い で

II 秋葉山常夜燈

火伏せの神を祀っている。江戸中期から秋葉信仰が盛んになった。

浜松地方では辻に常夜燈を建て、村人が輪番で祀っているところが多い。鬼瓦に「秋」の文字がある。

III 増 福 寺

- 1 弘法大師像 「弘法大師」は、朝廷が空海に与えた法名
遣唐使として唐に渡って学んだ 真言宗の開祖
平安初期の三筆の一人・・・空海 嵯峨天皇 橘逸勢

2 萬 靈 納 塔

昭和40年3月21日 土地改良施行に伴う道路用地となりし為 墓地の改廃を行う
此処に納骨碑を建立し厳かに供養す 諸精霊よ 安らかに成佛されんことを

3 六地藏尊・・・紙面の都合で後述

4 聖観世音菩薩 平成20年3月 吉日建立

大きな観音像 とにかく美しい彫刻

大慈大悲の徳があり、世人の救いの求めに応じて現れる。

5 隕石落下地点 隕石落下地点・落下年に諸説がある。

- ① 愛称標識「火事山」があった位置を、落下地点とする説（増福寺から100mぐらい南）

一宝永元甲申年（1704）正月十二日昼之九ツ時分に 当地在郷笹ヶ瀬村
蔵（増）福寺之地中之内江 天より玉壺ッ落申候 （以下略）

当時この辺は畑で、増福寺の参道であったといわれる。ここに隕石が落下したと記されている。落下時の摩擦熱で火事になったので「火事山」と呼ばれている。山は山号（常楽山）のことである。【古録集 平右衛門】・【浜松史史料編① 213頁】による。

② 増福寺住職益順の記録

- ・落下年： 元禄元年（1688）
正月12日正午近く
- ・落下場所： 増福寺西南畑中
（寺西に「笹ヶ瀬隕石落地点」の標識がある）

③ 市教育委員会 説明板

- ・静岡県天然記念物
- ・落下年： 諸説を併記している
- ・浜松市科学館に陳列されている

IV 八柱神社

時代の経過とともに神柱が増えている。それは？

- ・正保3年丙戌（1646）・創立（神殿に記してある）
- ・享保4年（1719）・・・・・・六所・八幡宮 「国領組諸色覚書帳」
社中2小宮 大明神ノ宮・若宮天白宮
- ・明和元年（1764）・・・・再建 下堀六所神社祭神ヲ合祀
- ・明治元年（1868）・・・・神殿再再建（棟札に記載してある）
- ・明治4年（1871）・・・・「村社八柱神社」 社格13級社となる。（昭和20年廃止）
- ・昭和27年（1894）・・・・社中4小宮 大明神・若宮大神・天白大神・津島牛頭天王
- ・昭和38年以降・・・・社中6小宮 上記の4小宮に大神宮・天満宮を加え6小宮となる

ヒント

「氏子安全」

「村中安全」

- 権現鳥居（四脚鳥居）薬師町八柱神社と同じ鳥居
- 幟立てに「氏子安全」と刻んである。
- 浄水の正面に「村中安全」と刻んである。



V 緑と花の街づくり ～グリーンバンク事業～

八柱神社にさしかかると、桜並木が見えてくる。この並木は、自動車学校まで続く。

VI 手づくり とうふ工房

八柱神社の斜め西。今風の明るい店舗。現代の暮らしの息づかいの中にも、どこか懐かしさが漂う街である。

六地藏尊（「増福寺 3」の項の説明）

① 地藏尊は お釈迦さまの分身

八
柱
神
社



釈迦が亡くなった後、56億7千万年後に弥勒菩薩が悟りを開くまで、娑婆の世界は無仏の暗黒の世界が続く。そのようなことがないように、釈迦の付託を受けて私たちを救済してくれるのが地蔵菩薩である。

2 善行は幸を招き 悪行は不幸を招く

犯した悪業の報いとして不幸な状態に陥る。過去の善悪の業（ごう）によって現在の幸不幸の果報を生じ、現在の善悪の業によって未来の幸不幸の果報を生じる。このことを因果応報という。地蔵菩薩は、私たちを善に導き、幸せにしてくださる。

3 煩悩

煩悩が悪業（あくごう）の根源を成す。欲望、執念、怒り、ねたみ、そねみ・・・等々の心の煩いを煩悩という。「煩悩」の「煩」は心の煩いを意味し、「悩」は心の苦しみ・悩みを意味する。古くは、心臓が心をつかさどるとされたが、現代は、心は脳がつかさどるとされている。知覚、感情、喜怒哀楽、愛憎、嫉妬、意思、行動などの精神作用はすべて脳がつかさどる。地蔵菩薩は、煩悩を取り除き、または煩悩を破壊し、あるいは身代わりになって心を清浄にしてくださる。

4 ^{りんね} 輪廻

煩悩は動き回り、絡み、もつれ悪業を繰り返す。車輪が回転してきわまりないように、衆生が六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六世界）に迷い、生死を重ねてとどまることがないことを輪廻という。迷いの世界を生き変わり死に変わることである。地蔵菩薩は極楽世界に安住できるように導き救ってくださる。

5 六道(死後の世界)

天上	阿弥陀如来が、極楽世界を主宰する。至上至楽の世界
人間	人間界（人界）は、天上界から見れば塵界のように汚れていると言われる
修羅	止むことがない ねたみそねみに苦しむ修羅の世界
畜生	悪業をつくり、愚痴やののしりが多い人が集まる世界
餓鬼	のどが針穴のように細く、飢えと渇きに苦しむ世界
地獄	閻魔が主宰し、鬼類が罪人を苛酷に罰し続ける苦痛な世界

6 地蔵菩薩の能化

＊能化とは、一切の衆生を救う者、即ち仏や菩薩のこと

- 法制地蔵＝ 天上能化・・・ 快楽に溺れ無規律になった（戒律を破った）罪を救う
- 地持地蔵＝ 人間能化・・・ 生・老・病・死・災の苦しみを救う
- 宝陵地蔵＝ 修羅能化・・・ 争い続ける平和のない苦しみを救う
- 辯尼地蔵＝ 畜生能化・・・ 動物的な無道徳の苦しみを救う
- 宝印地蔵＝ 餓鬼能化・・・ 限らない欲の苦しみを救う

7 ～地蔵菩薩が持っている仏具～

○ 法性地蔵が持つ香炉



香は心を静め落着かせる効能がある。香は欲望 執念 怒り ねたみなど、一切の煩悩を沈め気持ちを安らかにする。「沈香（じんこう）も焚かず、屁もひらず」ということわざがある。清いこともしないし、汚いこともしない。（善もなければ悪もない）という意味である。このような人には、お地蔵さまはどのようなさるのだろう。 *沈香：ジンチョウゲから採取した天然の香料。ジンチョウゲの生木または古木を土中に埋め腐敗させて製する。最良品を伽羅（きやら）という。

○ 地持地蔵が持つ数珠（珠数とも書く）

人間は108の煩悩を持つという。数珠は108の煩悩に糸を通し輪にしたものである。煩悩が動き回り 絡み もつれないようにして、心を円満な状態に保ち、穏やかに朗らかに過ごせるように救ってくださる。



○ 宝陵地蔵の合掌

合掌とは右の掌（たなごころ）と左の掌を合わせることをいう。仏様が右手とすれば自分は左手。仏さまと自分が一体になることである。仏さまと一体になることによって、一切の煩悩が取り除かれ、業や輪廻（前掲）から解脱する。

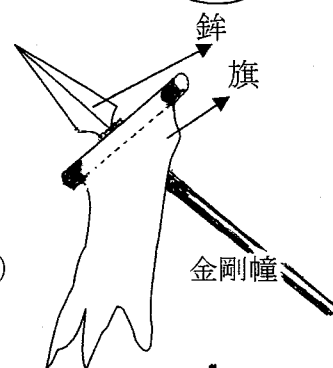
○ 辯尼地蔵が持つ宝珠

宝珠とは頭の先がとがって炎の形をしている玉のことである。宝珠の頭及び左右から火炎が燃えさかる。火は清浄で、不浄を掃う（はらう）という。心の隅々まで清め、汚れを滅却する。



○ 宝印地蔵が持つ金剛幢

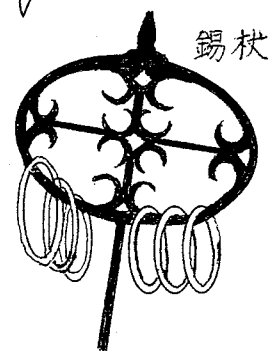
金剛は何ものも破り、何ものにも破られない堅固な物質。幢は、はたほこ。金剛幢で煩悩を破碎してくださる。



○ 光味地蔵が持つ錫杖・宝珠

インドで僧侶が山野を遊行するとき、これを振り鳴らし毒虫などを追ったという。錫は混じりけのない金属（金属元素 記号 Sn）で、汚れけがれを寄せ付けない。

錫は、錆びないで光沢を保ちつづける。宝珠については上述。光味地蔵は、地獄の苦しみを受けて救ってくださる。



- 六地蔵は、長伝寺（和田町） 増福寺（篠ヶ瀬町） 松隠庵（北島町） 安正寺（薬師町） 用光庵（材木町）にある。